

# 幼児の環境と遊びについて



寛田知義  
瀧本和子  
並河信子

## 一、幼児の環境と遊びの調査

社会では、さまざまなものが急激に変化しているといわれている。確かに、十年前や二十年前の生活条件や生活様式と現在のものとは比較してみると、随分変わっている。政治や経済の条件から、個人の生活観から生活様式などの変化は著しい。それ故、子どもの生活様式も変わりつつあると考えてみていいであろう。

そこで、私たちはこの子どもの生活の変化を、子どもの生活環境から具体的に把握してみたいと考えたのである。その方法として、子どもの生活のなかで、重要な部分をしめ、子どもの生活をよく反映させていると考えられる「遊び」を通して検討することを試みたのである。さらに、生活の変化のてがかりの一つとして「都市化」ということを考えて、都市と農村を比較して検討する

ことにしたのである。

そこで、子どもの遊びについて、1、遊び場所、2、遊びの種類、3、遊具、4、遊び相手、に分けて、西日本各地で幼稚園児、保育所在所児を対象として、質問紙法によって、幼児の保護者に記入してもらって検討することにした。調査人数は、回収されたもののうちで処理された数として第1表をあげた。調査地域は大都市の大阪市・神戸市、大都市周辺地域として団地居住の豊中市・池田市、地方中都市として富山市・高知市、農村地域として姫路市の農村地域を選んだ。なお、今回の報告は紙数の関係から、「遊び相手」を除く、三項目の一部について述べることにした。また、この調査の地域の選択や遊びの種類、遊具の項目の選択を結果処理の都合上で局限したために問題を残したことを附記する。調査は昭和四十二年十月下旬に実施したものである。

第1表 調査対象

地域	男子 (名)	女子 (名)	男女総計 (名)
富山市	332	336	668
高知市	172	162	334
姫路市	481	434	195
豊中・池田市	102	98	200
神戸市	275	227	502
大阪市	344	367	711
総計	1706	1624	3330

二、遊び場について

調査方法 前述の如く、遊びに関しては、遊び場所・遊びの内容および遊具について、一連の質問紙を製作し、幼稚園・保育所など施設を通して母親に記入を依頼した。遊びに関しては、(1)近くの公園・広場(2)近くの道路や空地(3)自分の家の庭、またはよその家の庭(4)アパートの屋上(5)自分の家の中(6)よその家の中の六種とし、非常によく遊ぶ、ときどき遊ぶ、遊ばないの三段階とした。

結果とその考察、遊び場の調査結果は、男女それぞれに地域別に分類し、六種の遊び場を(1)非常によく遊ぶ、(2)ときどき遊ぶ、(3)ほとんど遊ばないの三段階としたがその一覧表が第2表である。この表に準じて述べると、非常によく遊ぶ場所は男女、各地域を通じて、自分の家の中で遊ぶものが最も多く、五四%(神戸・男)七六%(富山・女)にわたっている。この傾向は大阪を除き、女子により強い。次に多く遊ぶ場所である道路・空地、公

第2表 遊び場所

	大男(%)	大阪女(%)	神戸男(%)	神戸女(%)	豊中・池田男(%)	豊中・池田女(%)	姫路男(%)	姫路女(%)
自分の家の中 (1) (2) (3)	219(66) 110(33) 5(1)	214(62) 120(35) 12(3)	146(54) 120(44) 5(2)	137(61) 86(38) 3(1)	64(63) 37(37) 0(0)	136(73) 26(27) 0(0)	253(55) 206(44) 3(1)	260(60) 158(37) 13(3)
公園 (1) (2) (3)	93(28) 179(53) 65(19)	69(19) 190(54) 92(26)	90(33) 141(53) 38(14)	62(28) 108(48) 55(24)	46(45) 41(40) 15(15)	40(41) 34(35) 24(24)	213(47) 162(35) 81(18)	160(36) 174(39) 110(25)
道路 (1) (2) (3)	134(40) 128(38) 73(22)	94(26) 169(48) 92(26)	139(51) 96(34) 40(15)	94(42) 97(44) 40(15)	40(40) 41(42) 18(18)	25(26) 38(39) 34(35)	225(49) 186(41) 47(10)	167(41) 185(45) 55(14)
その他 (1) (2) (3)	106(33) 131(41) 84(26)	112(33) 138(41) 90(26)	77(30) 116(45) 66(25)	78(35) 102(46) 66(25)	42(42) 34(35) 23(23)	48(51) 24(25) 23(24)	240(53) 172(37) 44(10)	214(51) 169(41) 34(8)
よその家 (1) (2) (3)	65(19) 213(64) 57(17)	75(22) 240(69) 33(9)	37(14) 205(76) 27(10)	44(20) 160(71) 27(10)	23(23) 72(70) 7(7)	18(18) 76(78) 4(4)	33(7) 339(75) 82(18)	61(15) 308(74) 45(11)
アパートの屋上 (1) (2) (3)	13(4) 32(11) 255(85)	39(12) 34(10) 254(78)	4(2) 22(9) 221(89)	6(3) 10(5) 184(92)	0(0) 4(4) 90(96)	2(2) 2(2) 85(96)	11(3) 11(3) 356(94)	4(1) 14(4) 319(95)

(1) 非常によく遊ぶ (2) ときどき遊ぶ (3) ほとんど遊ばない

第2表 (つづき)

		知		富		山	
		高男(%)	女(%)	男(%)	女(%)	男(%)	女(%)
自家の中	(1)	102(60)	110(68)	211(66)	252(76)		
	(2)	65(38)	48(29)	104(33)	73(24)		
	(3)	4(3)	4(3)	3(1)	0(0)		
公園	(1)	56(34)	45(29)	119(38)	66(21)		
	(2)	78(47)	80(52)	135(43)	156(50)		
	(3)	32(19)	27(17)	59(19)	92(29)		
道空	(1)	56(33)	48(31)	147(49)	111(33)		
	(2)	81(48)	79(52)	106(36)	157(47)		
	(3)	33(19)	27(17)	44(15)	68(20)		
自の庭	(1)	74(44)	80(50)	130(42)	147(46)		
	(2)	82(48)	73(47)	136(44)	140(43)		
	(3)	14(8)	6(4)	44(14)	36(11)		
よ家の中	(1)	21(12)	24(15)	44(14)	48(15)		
	(2)	127(76)	120(73)	240(74)	243(75)		
	(3)	21(12)	21(12)	37(12)	33(10)		
アパート	(1)	5(4)	2(1)	4(1)	2(1)		
	(2)	8(5)	5(4)	13(5)	16(6)		
	(3)	136(91)	128(95)	246(94)	268(73)		

園・広場、自他の庭など男女および地域によって差がみられ、いずれも二位～四位を占めている。これらはそれぞれ記載者によって、地域によって、これらの場の用語に対する主観や解釈が異なっているのではないかと思うが、はっきりしたことは分からな  
い。なお全般的にみて、姫路・高知は自他の庭で遊ぶことが、他の地域よりも多い。姫路は対象となった施設が農村地区に多いことが原因と思うが、他に比し、最も戸外の遊び場に恵まれているといえよう。順位五を占めるものはよその家の中で、大阪の女子

を除く、男女・全地域にわたっている。最も順位の低い場所、すなわち遊ばれていない場所は屋上である。

大阪の女子のみ、他の地域に比し屋上の使用が多いのは、住宅事情・交通事情など戸外の遊び場に恵まれず、一方公団住宅などが多いことが原因であろうか。全般に女子は男子より建物に属して遊びがちといえよう。

ときどき遊ぶ場所に関しては、よその家の中が最も多く、六四％(大阪・男)～七八％(豊中・女)(注・豊中は池田も含む、以下これに準ずる)となっている。公園・広場、自他の庭、道路・空地に関しては表にみられるごとく、地域・男女による差があり、概して二位～四位となっている。ときどき遊ぶ場所の下位は、前述の非常によく遊ぶ場所の下位と同じく、全地域・男女を通じて屋上であるが、大阪におけるその利用度は、男女とも他の地域よりたかい。

遊ばない場所は第2表の(3)に該当するが、全地域・男女を通じて屋上で七八％(大阪・女)より九六％(豊中・男女)となっている。次に遊ばない場所は、男子では表の如く地域によって異なり、女子は豊中を除いていずれも近くの公園・広場となっている。下位はいずれも自分の家の中となっている。この表を通してみると、非常によく遊ぶ場所の上位と、遊ばない場所の下位は一致しており、遊ばない場所の上位と、非常によく遊ぶ場所の下位

も一致している。

全般的に、姫路を除きいずれも戸外の遊び場に恵まれているとはいえない。交通および住宅事情など原因は多様に考えられるが、全身運動が必要な幼児期にこのような状態は検討を要する。

すなわち、幼稚園・保育所など、施設では環境の設定・カリキュラムの作製などに考慮を払いたい。至難に近いことであろうが、広い遊び場を備えるよう考慮する、筋肉運動のできる機会を多くつくるなどに留意したい。

### 三、遊びの内容について

調査方法 遊びの内容に関しては、幼児が遊ぶと思うものを83項目あげ、これも、よくする、ときどきする、ほとんどしないの三段階とした。これらの項目は幼稚園の教育内容である六領域と考え合わせて作製した。すなわち、83項目のうち(1)～(2)は健康、(3)～(4)は社会に、(4)～(6)は自然に、(6)～(7)は言語に、(7)～(9)は音楽リズムに、(9)～(13)は絵画製作におよそ該当するとした。

結果とその考察 遊びに関しては、よくする、ときどきするおよびしないのそれぞれについて、男・女・総計別に、地域別に、83項目のうち記入頻度のたかいものから列挙した結果を中心に以下報告する。すなわち、83項目を男女別および地域別に検討すると、全般的には、大体ある順位内にある特定の遊びが見出される

場合が多い。しかし、さらに次のような分類を試みた。すなわち男女地域を通して遊ぶ頻度の非常にたかいもの、若干の地域差のみられるもの、地域差の大きいもの、地域差の小さいものなどである。

よくする遊びについて 男女・各地域を通して頻度が多く%のたかいもの、すなわち、①～⑩(注・数字は83項目中の順位番号)を占める遊びについてみると、「テレビをみる」が全般的に順位①である。八四%(姫路・豊中・女)～九一%(大阪・男)となっており、家庭生活の中にテレビが浸透しているといえよう。このことはまた、施設など幼児教育の場においても、テレビの普及による影響に関して考慮を払うべきだといえよう。

各地共通に①～⑤に入る遊びは男子では「絵本をみる」および「砂あそび」で、女子では「絵本をみる」であった。男女・地域を問わず⑤までに入る遊びは、「テレビをみる」「絵本をみる」であるといえよう。遊びの機能からみれば、これらはいずれも受容的な遊びであり、テレビを見る時間、絵本の選択など留意すべき課題も多いと思う。男子の遊びで各地共通に①～⑩に入ったものは「怪獣遊び」「乗物の玩具遊び」で、女子は「絵をかく」「うたをうたう」「ままごと」であり、「絵をかく」「うたをうたう」以外に男女差が大きい。例えば「怪獣あそび」は男子では③～⑧であるのに、女子では⑦～⑩で、ままごと遊びは女子は③～⑥を占め、

第3表 よくする遊び (地域差の若干あるもの)

あそびの種類	男		あそびの種類	女	
	H 地域	L 地域		H 地域	L 地域
1 いろいろあつめる	② 高知	⑪ 姫路	1 砂あそび	② 姫路	⑪ 神戸
2 泥いじりをする	④ 姫路	⑬ 高知	2 いろいろあつめる	⑦ 高知 神 豊 中 戸	⑫ 富山
3 数をかぞえる	⑥ 高知	⑫ 大阪	3 数をかぞえる	⑦ 大阪	⑭ 姫路
4 本をよんでもらう	⑦ 高知	⑬ 大阪	4 おりがみをする	⑦ 富山	⑱ 高知
5 飛行機をとばす	⑧ 高知	⑯ 大阪	5 ぬりえ	⑧ 高知	⑭ 大阪 中 豊
6 積木あそび	⑧ 大阪	⑰ 豊中	6 ぶらんこにのる	⑧ 高山 姫 路	⑰ 神戸
7 うたをうたう	⑩ 豊中	⑯ 高知	7 字をかく	⑨ 神戸	⑱ 豊中
8 水あそびをする	⑩ 大阪	⑯ 姫路	8 おりがみをする	⑩ 大阪	⑲ 豊中 神 戸
9 おりがみをする	⑬ 姫路	⑳ 高知	9 本をよんでもらう	⑪ 高知	⑲ 神 戸 大 阪
10 三輪車にのる	⑭ 富山	⑳ 高知	10 買物についていく	⑫ 高知	⑳ 姫 路 中 大 阪
11 きりがみをする	⑰ 大阪 姫 路	㉑ 豊中	11 かけっこをする	⑬ 神戸	㉑ 大 阪
12 数字をかく	㉑ 姫路	㉒ 大阪	12 買物ごっこ	⑬ 高知	㉒ 大 阪
13 ちゃんばらをする	㉑ 富山	㉓ 高知	13 泥いじり	⑮ 富山 大 阪 姫 路	㉑ 神 戸
14 ぬりえをする	㉑ 姫路	㉓ 高知	14 すべり台であそぶ	⑮ 豊中	㉑ 姫 路
15 ゲームあそび	㉑ 神 戸 高 知	㉓ 大阪	15 数字をかく	⑮ 神戸	㉑ 豊 中
16 かくれんぼをする	⑳ 神 戸	⑫ 豊中	16 水あそびをする	⑱ 大阪	⑳ 豊 中
17 花火あそび	㉑ 高知	⑫ 富山	17 らくがきをする	⑳ 大阪	⑳ 姫 路 中 大 阪
18 鉄棒であそぶ	㉑ 姫路	⑫ 高知	18 しゃぼん玉	㉑ 富山	⑳ 神 戸 大 阪
19 探偵ごっこ	⑫ 大阪	⑫ 高知	19 鉄棒であそぶ	㉑ 富山	㉑ 神 戸 高 知
20 野 球	⑫ 高知	⑫ 豊中	20 レコードをきく	㉑ 豊中	㉑ 神 戸

それが男子では⑤⑧となつてゐる。

次に若干の地域差のみられる遊びについて述べるが、地域によって多少の変化がみられるものばかりあげたが、この分類に入るものは女子の遊びにより多い。

すなわち、女子の遊びの方が、男子より地域差が少ないとも考えられるのではなからうか。頻度のたかいものから、男女20種まであげたものが第3表である。

地域によって差の大きい遊びのみをあげ(順位で16以上差異のあるもの)、これを地域差の大きいものから男女とも10位まで、列挙したものが第4表である。それぞれ原因を検討すべきであるが、ここでは省略する。全般に地域差の大きいものは、例えば動物園など施設の有無に係するもの地域環境・遊び場の状況・地方色などと関係ある項目が多いが、男女によつて内容は異なつており、はっきりしたことはいえない。

地域差の少ないもの、すなわちほとんど

第4表 よくする遊び（地域差の大きいもの）

	あそびの種類	大 阪	神 戸	豊 中	姫 路	高 知	富 山
		順位 %	順位 %	順位 %	順位 %	順位 %	順位 %
男	1 じんとり	83 1	45 4	83 1	83 1	77 3	83 1
	2 動物園に行く	44 13	38 22	44 16	70 4	52 11	63 6
	3 すべり台であそぶ	43 19	14 43	14 42	24 33	21 35	21 34
	4 カルタであそぶ	17 36	42 17	42 2	46 15	35 19	38 18
	5 めんこ	81 1	53 13	79 1	79 2	66 6	80 2
	6 草花つみ	56 9	47 14	63 8	37 22	63 4	46 14
	7 マリであそぶ	24 28	31 26	55 23	29 37	49 13	33 20
	8 廃品で作品をつくる	44 18	38 19	54 12	29 26	41 14	45 15
	9 なわとびをする	65 4	69 5	57 8	51 8	76 2	67 5
	10 虫とり	38 18	37 22	15 41	15 36	32 29	19 3
女	1 草花つみ	44 16	41 19	17 47	24 32	34 25	26 31
	2 海水浴	36 21	49 16	28 30	51 9	35 25	54 8
	3 ゴムひもとび	54 9	61 8	69 1	45 11	53 10	50 8
	4 あやとり	59 6	48 17	72 1	61 5	60 7	56 7
	5 カルタであそぶ	34 22	42 20	46 16	39 2	23 34	38 19
	6 人形あそび	6 64	2 81	2 80	3 76	2 75	24 55
	7 動物園に行く	47 14	71 3	51 14	69 2	50 11	70 3
	8 どろぼうごっこ	75 2	77 1	59 5	67 3	80 1	74 2
	9 果物とり	79 1	68 7	58 1	78 1	58 7	78 1
	10 マリであそぶ	21 41	21 40	33 27	23 32	39 19	30 28

第5表 よくする遊び（地域差の小さいもの）

	あそびの種類	大 阪	神 戸	豊 中	姫 路	高 知	富 山
		順位 %	順位 %	順位 %	順位 %	順位 %	順位 %
男	1 買物ごっこ	50 12	50 13	48 13	48 10	48 13	48 11
	2 ぶらんこにのる	22 34	21 35	24 33	22 35	22 34	22 34
	3 たけうま・かんうま	82 1	83 1	80 1	82 1	79 1	79 2
	4 動物とあそぶ	45 13	44 16	45 15	44 15	41 20	47 13
	5 しゃぼん玉	30 23	32 26	36 23	36 18	31 27	31 21
	6 わなげ	78 2	77 3	76 1	75 2	72 3	73 3
	7 どろぼうごっこ	78 2	77 2	76 1	75 2	72 1	78 2
女	1 積木あそび	23 31	31 30	31 29	26 32	27 31	27 31
	2 飛行機をとばす	65 5	67 3	62 3	64 3	65 5	62 5
	3 三輪車にのる	32 27	29 37	34 25	35 25	33 27	32 27
	4 ゲーム	46 14	46 17	49 14	49 10	43 18	48 10
	5 テレビ体操	55 7	57 9	57 7	57 5	61 6	59 2
	6 楽器をひく	26 33	28 33	21 42	27 31	26 32	28 29
	7 チャンバラをする	72 2	75 1	68 1	74 1	70 2	72 2

と同じ順位のところに同じ遊びが共通にあるものが、男女によって内容の項目は異なるが若干あり、その差の少ないものから示したものが第5表である。地域環境が異なっているにもかかわらず、順位の等しい遊びがあることは興味深い。

ほとんどしない遊びとしては、㉞㉟㊱に入る男子の「たけうま、かんうま」などがこれに該当するといえよう。

ときどきする遊びについて ときどきする遊びとして各地域共通に①④⑤に入っているものは、男子では「しゃぼん玉」で、女子では、「しゃぼん玉」および「花火遊び」である。全般にときどきする遊びはよくする遊びに比して、季節的なものや、行動範囲がより大きいというか運動量の大きいものが多い。

しない遊びについて ほとんど遊ばないものとして各地域共通に①④⑤に入る遊びは、男子では「たけうま・かんうま」で、女子では「西部劇ごっこ」「たけうま・かんうま」である。しない遊びの低位をみると、男女通して「絵本をみる」が最も多く、よくする遊びの上位とは、やや一致しない。

#### 四、遊具について

調査方法 遊具の調査は他の項目と同様に質問紙法で、「家にある遊び道具(家にあるものはすべて番号に○をつけて下さい)」ということで、「1、三輪車」から「83、ピーズ」までの83項目を

列記した。これらの項目は、幼稚園教育要領の六領域も考慮して抽出した。

結果とその考察 遊具の調査結果は、(1)男子、(2)女子、(3)男女総計の三種に区分して、それぞれを地域別に整理した。紙数の関係で全体を記述できないので、そのうち男女総計を基準として、問題のうちの幾つかについて述べることにした。先ず、家庭にある遊具のうちで、男女総計で各地域共通に上位にあるもの(所有の順位と%の多いもの)を示したものが第6表である。

これらの上位にある遊具に共通していると考えられるのは次の通りである。第一に、「うきぶくろ」と「なわとびのなわ」以外は室内のものである。すなわち大部分は室内遊具といえる。特に、十位以内で共通しているものは、全部室内遊具である。第二に、保護者の費用の負担の重くないもの、(テレビを除く)第三に、保護者がみて、教育的効果があると考えられるもの、第四に、保護者の幼児時代にすでにあったもの(テレビを除く)などである。このようにみると、家庭によくある遊具は格別に時代的な変化がないともいえるのである。なお、この場合、テレビとトランプは純粹に幼児の遊具として具えられたものかどうか問題である。

また、逆に家庭にある遊具で下位のもので(所有する家庭の少ないもの)、各地域に共通するものを挙げたのが第7表である。

下位にある遊具は、上位にある遊具にみられるような全般的な

第6表 所有度の多い遊具

遊 具		男	女	総 計
・上位10以内で共通するもの（○の中は上位よりのそれぞれの地域での順位）				
1	クレヨン・クレパス	大阪① 94.5% 姫路① 95.1%	神戸① 98.4% 高知① 95.8%	豊中④ 99.5% 富山① 96.8%
2	のりもの絵本	大阪④ 92.1% 姫路⑤ 88.9%	神戸⑤ 93.0% 高知⑥ 89.2%	豊中③ 98.5% 富山⑥ 92.0%
3	動物絵本	大阪⑤ 92.0% 姫路③ 90.0%	神戸⑥ 92.6% 高知④ 89.8%	豊中④ 97.5% 富山⑤ 92.5%
4	色がみ	大阪⑦ 90.9% 姫路② 92.2%	神戸② 97.4% 高知③ 90.4%	豊中② 99.0% 富山② 95.2%
・上記4項目以外で20位以内で共通のもの				
5	テレビ	大阪① 94.5% 姫路⑨ 82.8%	神戸④ 93.6% 高知② 92.5%	豊中⑱ 84.0% 富山③ 93.5%
6	うきぶくろ	大阪⑥ 91.1% 姫路⑥ 87.7%	神戸⑨ 90.0% 高知⑩ 86.5%	豊中⑥ 94.5% 富山⑫ 83.9%
7	物語絵本	大阪⑧ 88.2% 姫路⑧ 84.2%	神戸⑧ 90.8% 高知⑤ 89.8%	豊中⑫ 87.5% 富山⑨ 87.2%
8	子ども用はさみ	大阪⑨ 87.3% 姫路⑦ 87.3%	神戸⑦ 92.0% 高知⑦ 88.6%	豊中⑭ 85.5% 富山⑧ 89.8%
9	積木	大阪⑩ 86.7% 姫路⑪ 80.7%	神戸⑩ 89.4% 高知⑨ 89.2%	豊中⑤ 95.5% 富山⑪ 88.0%
10	ぬりえ	大阪⑪ 83.3% 姫路⑩ 81.8%	神戸⑪ 88.4% 高知⑫ 82.3%	豊中⑮ 85.5% 富山⑩ 88.9%
11	トランプ	大阪⑮ 78.9% 姫路⑳ 73.0%	神戸⑭ 83.4% 高知⑮ 80.8%	豊中⑯ 85.0% 富山⑬ 83.3%
12	なわとびのなわ	大阪⑯ 78.2% 姫路⑮ 77.7%	神戸⑬ 84.2% 高知⑯ 79.0%	豊中⑳ 83.0% 富山⑰ 77.0%

共通性がないのである。むしろ、それぞれの遊具の本質的な条件や社会的条件によって、下位になったものと考えられる。それだけのちがった条件を列挙すると次の通りである。第一に、子どもの発達段階から考えて、高級で不適當と思われるもの、第二に、室外や室内で適當な広さの場所を必要とするもので、その場所の

最低、最高を示すものの一番多いのは団地居住の豊中・池田地区である。ここに団地の居住性からくるものと文化性からくるものとをみるることができる。すなわち「自転車」や「虫とり網」などの居住地域条件に関連のあるものは大都市に少なく、それ以外の中小都市に多い。また、子どものレコード・パズル・カスターネッ

確保が問題となるもの、第三に、家になくても、近くの公共施設などで利用できるもの、第四に、保護者にあまり教育的でないと考えられるもの、第五に、相当に費用のかかるもの、第六に、保護者になじみのない新しいもの、第七に、男女総計であるので男子か女子のどちらかがあまり使用しないものなどである。

さらに、遊具で各地域によって、順位に差のあるもの、つまり地域によって普及のちがいのある遊具について述べる

と、第8表のようにするのである。

この順位差の大きい遊具をみてみると、子どもの生活環境のちがいと遊具の普及の変動の動向を指示しているようにも思えるのである。この順位差のなかで



第7表 所有度の少ない遊具（男女総計）

下位10位以内共通のもの（83項目のうち74位から83位）						
1	子ども用大工道具	大阪 <sup>83</sup> 8.0% 姫路 <sup>83</sup> 6.8%	神戸 <sup>82</sup> 12.5% 高知 <sup>83</sup> 8.7%	豊中 <sup>83</sup> 11.0% 富山 <sup>83</sup> 6.4%		
2	ピンポン用具	大阪 <sup>82</sup> 12.5% 姫路 <sup>82</sup> 10.0%	神戸 <sup>81</sup> 13.7% 高知 <sup>82</sup> 10.5%	豊中 <sup>82</sup> 11.5% 富山 <sup>76</sup> 23.5%		
3	すべり台	大阪 <sup>81</sup> 15.2% 姫路 <sup>81</sup> 11.5%	神戸 <sup>83</sup> 10.3% 高知 <sup>81</sup> 15.9%	豊中 <sup>77</sup> 26.0% 富山 <sup>82</sup> 11.8%		
4	標本	大阪 <sup>77</sup> 22.1% 姫路 <sup>80</sup> 13.3%	神戸 <sup>80</sup> 21.3% 高知 <sup>79</sup> 21.6%	豊中 <sup>78</sup> 25.5% 富山 <sup>81</sup> 16.1%		
5	お手玉	大阪 <sup>75</sup> 26.0% 姫路 <sup>74</sup> 22.2%	神戸 <sup>78</sup> 29.0% 高知 <sup>77</sup> 28.7%	豊中 <sup>79</sup> 23.5% 富山 <sup>79</sup> 20.2%		
下位10位以外で下位20以内共通のもの（64位～83位）						
6	めんこ	大阪 <sup>80</sup> 17.7% 姫路 <sup>68</sup> 29.2%	神戸 <sup>64</sup> 43.0% 高知 <sup>76</sup> 27.5%	豊中 <sup>80</sup> 13.0% 富山 <sup>75</sup> 23.6%		
7	のれる自動車	大阪 <sup>79</sup> 21.4% 姫路 <sup>76</sup> 18.2%	神戸 <sup>69</sup> 38.6% 高知 <sup>79</sup> 21.0%	豊中 <sup>73</sup> 31.5% 富山 <sup>78</sup> 20.3%		
8	ブランコ	大阪 <sup>76</sup> 25.6% 姫路 <sup>67</sup> 30.4%	神戸 <sup>79</sup> 22.1% 高知 <sup>78</sup> 26.3%	豊中 <sup>71</sup> 35.0% 富山 <sup>74</sup> 23.9%		
9	おもちゃの虫類	大阪 <sup>78</sup> 21.7% 姫路 <sup>71</sup> 24.9%	神戸 <sup>73</sup> 35.0% 高知 <sup>80</sup> 29.9%	豊中 <sup>80</sup> 14.0% 富山 <sup>80</sup> 17.5%		
10	てっぽう	大阪 <sup>73</sup> 30.1% 姫路 <sup>79</sup> 17.3%	神戸 <sup>74</sup> 33.4% 高知 <sup>72</sup> 30.2%	豊中 <sup>74</sup> 31.5% 富山 <sup>73</sup> 25.2%		
11	タンバリン	大阪 <sup>71</sup> 34.3% 姫路 <sup>77</sup> 17.9%	神戸 <sup>77</sup> 31.2% 高知 <sup>77</sup> 27.5%	豊中 <sup>68</sup> 42.5% 富山 <sup>71</sup> 29.3%		

トおよび怪獣おもちゃなどの新しい幼児の遊具は都市地域とその周辺に多いようである。なお、姫路にシャベルの少ないのは、それに関連のある行動が少ないのではなしに、直接的にそれに代わる行動と道具が十分あるためにこの結果となったと思われる。これらの状況は第9表の如く男子と女子の順位差のある遊具をみる

具の地域  
この遊  
なる。  
明らかに  
とさらに

第8表 地域による順位差の大きい遊具（男女総計）

遊具(差)	大阪	神戸	豊中池田	姫路	高知	富山
自転車(40)	<sup>47</sup> 54.0%	<sup>57</sup> 47.4%	<sup>54</sup> 56.5%	<sup>17</sup> 77.8%	<sup>38</sup> 61.4%	<sup>46</sup> 53.8%
子ども用レコード(39)	<sup>25</sup> 71.6%	<sup>29</sup> 71.1%	<sup>8</sup> 89.0%	<sup>47</sup> 47.4%	<sup>32</sup> 65.3%	<sup>37</sup> 62.1%
シャベル(34)	<sup>14</sup> 78.9%	<sup>16</sup> 82.0%	<sup>7</sup> 92.5%	<sup>41</sup> 50.9%	<sup>8</sup> 88.0%	<sup>7</sup> 90.4%
小さいボール(28)	<sup>3</sup> 93.8%	<sup>3</sup> 95.6%	<sup>31</sup> 78.0%	<sup>4</sup> 89.1%	<sup>11</sup> 85.0%	<sup>4</sup> 92.6%
バズル(27)	<sup>63</sup> 40.6%	<sup>58</sup> 47.0%	<sup>45</sup> 62.5%	<sup>72</sup> 24.6%	<sup>58</sup> 43.3%	<sup>61</sup> 42.0%
虫とり網(25)	<sup>33</sup> 62.4%	<sup>32</sup> 69.9%	<sup>13</sup> 85.5%	<sup>13</sup> 78.9%	<sup>23</sup> 75.1%	<sup>18</sup> 78.7%
大きいボール(24)	<sup>24</sup> 71.9%	<sup>28</sup> 71.1%	<sup>33</sup> 75.5%	<sup>40</sup> 51.1%	<sup>45</sup> 55.1%	<sup>43</sup> 52.3%
カルタ(22)	<sup>21</sup> 72.7%	<sup>22</sup> 76.2%	<sup>35</sup> 72.2%	<sup>22</sup> 71.6%	<sup>13</sup> 81.7%	<sup>19</sup> 77.5%
カスターネット(22)	<sup>40</sup> 61.6%	<sup>43</sup> 59.5%	<sup>36</sup> 71.5%	<sup>28</sup> 62.5%	<sup>37</sup> 61.4%	<sup>51</sup> 50.7%
ふうい(22)	<sup>50</sup> 52.2%	<sup>62</sup> 44.2%	<sup>44</sup> 62.5%	<sup>54</sup> 43.0%	<sup>66</sup> 34.3%	<sup>57</sup> 45.2%
じょうご(21)	<sup>44</sup> 51.8%	<sup>44</sup> 53.7%	<sup>51</sup> 59.0%	<sup>44</sup> 48.5%	<sup>51</sup> 49.4%	<sup>30</sup> 70.3%
怪獣おもちゃ(21)	<sup>48</sup> 54.0%	<sup>39</sup> 62.3%	<sup>55</sup> 56.5%	<sup>49</sup> 45.2%	<sup>55</sup> 47.3%	<sup>63</sup> 43.2%
輪なげ(21)	<sup>64</sup> 40.5%	<sup>70</sup> 37.6%	<sup>65</sup> 44.5%	<sup>69</sup> 27.5%	<sup>55</sup> 46.7%	<sup>49</sup> 52.0%

(このほか、20位の順位のあるものは、「おもちゃの動物」「虫かご」「おもちゃの黒板」「子ども用ビニールプール」「おはじき」などである。)

第9表 地域による順位差の大きい遊具（男子および女子）

遊具(差)		大阪	神戸	豊中池田	姫路	高知	富山
男	シャベル(55)	⑭ 78.8%	⑰ 81.0%	⑭ 91.7%	③ 30.1%	⑫ 85.5%	⑧ 81.9%
	小さいボール(42)	① 97.1%	① 99.2%	④ 65.7%	② 93.7%	⑥ 91.3%	⑤ 93.3%
	おもちゃの動物(37)	⑰ 77.0%	⑰ 75.2%	⑩ 87.3%	⑤ 44.0%	② 77.3%	② 69.5%
	自転車(37)	④ 58.7%	④ 56.3%	④ 61.8%	⑫ 83.1%	⑩ 73.3%	⑦ 62.0%
	めんこ(34)	⑨ 18.7%	④ 57.8%	⑧ 18.6%	⑦ 39.9%	⑤ 41.3%	⑥ 28.3%
	子ども用レコード(32)	② 71.5%	③ 69.8%	⑤ 88.2%	④ 46.3%	⑤ 68.0%	④ 58.7%
	子ども用ビニールプール(27)	⑦ 62.2%	⑦ 45.8%	③ 68.6%	④ 29.5%	⑤ 43.6%	⑥ 40.0%
	大きいボール(25)	② 72.1%	⑦ 66.9%	③ 76.5%	④ 47.6%	④ 51.7%	⑤ 48.4%
女	自転車(41)	⑤ 49.6%	⑦ 36.5%	⑤ 51.0%	② 71.8%	⑤ 48.8%	⑤ 45.8%
	テレビ(38)	① 93.5%	⑥ 93.3%	③ 70.4%	② 71.4%	⑩ 88.3%	⑦ 93.1%
	なわとびのなわ(31)	④ 83.9%	⑦ 92.9%	③ 71.4%	⑪ 85.2%	② 78.4%	④ 88.6%
	子ども用ハサミ(30)	⑧ 87.7%	⑪ 89.9%	⑦ 72.4%	⑦ 88.0%	④ 84.6%	⑧ 93.1%
	子ども用レコード(29)	② 71.7%	③ 72.6%	⑤ 89.8%	④ 48.6%	⑩ 62.3%	⑦ 65.4%
	おはじき(26)	⑤ 48.8%	⑦ 64.7%	⑤ 58.2%	④ 47.0%	② 71.5%	③ 65.4%
	ビーズ(26)	⑤ 40.1%	④ 31.7%	⑤ 19.4%	⑤ 41.9%	③ 63.6%	⑤ 44.6%

第10表 絵本の種類（男女総計）

絵本の種類	大阪	神戸	豊中	姫路	高知	富山
のりもの絵本	④ 92.1%	⑤ 93.0%	③ 98.5%	⑤ 88.9%	⑥ 89.2%	⑥ 92.0%
動物絵本	⑤ 92.0%	⑥ 92.6%	④ 97.5%	③ 90.0%	④ 89.8%	⑤ 92.5%
物語絵本	⑧ 88.2%	⑧ 90.8%	⑪ 87.5%	⑧ 84.2%	④ 89.8%	⑨ 87.2%
童話絵本	⑰ 76.5%	⑱ 79.0%	⑨ 88.0%	② 70.7%	⑱ 78.7%	⑱ 79.0%
花草絵本	⑲ 72.0%	⑩ 70.5%	⑱ 83.0%	⑱ 76.0%	⑲ 72.2%	⑲ 73.6%

間の順位差を、遊具の変動の動向と解釈すれば、順位差の大小があるのであるから、当分変わらない遊具と、変わりつつある遊具があるといえよう。問題は遊具が変わっていつて、新しい社会や生活様式のもの遊具が、子どもにどんな行動をとらせ、どんな能力をつけるかということである。このようなことを考えてみると次のような傾向がみられるように思われる。第一に、順位差の小さい遊具や新しく家庭に普及しつつある遊具は、室内用ないしはこれに準ずるもので、概して小さいものが多い。第二に、逆に減少していくと考えられる遊具は戸外用のものが多い、第三に、幼児が直接的に行動する遊具より、鑑賞的な遊具が多くなる。例えば、姫路地区を除いては「虫とり網」よりは「虫かご」が多くなっている。第四に、幼児の直接的な生活に関連のある遊具よりは、間接的な生活に関連のあるものの遊具が増えている。例えば「怪獣おもちゃ」とか、第10表のごとく、動物園の動物の絵本が多くて、身近な植物や動物に関する絵本が姫路を除いては少ないのである。このように、家庭生活における幼児の遊びの条件に変化がおこっていることを考えるとき、その変化の内容の詳細な検討とともに、これに対応する組織的な幼児教育のプログラム作製の必要性を感じるのである。